

心房細動患者の断酒で不整脈の再発減少の効果あり

これまでの研究で、過剰な飲酒が心房細動の発症や有害な心房リモデリングと関連することが示されているが、飲酒をやめることによる心房細動の二次予防への効果についてはよくわかっていない。本研究では、オーストラリアの6施設において多施設共同前向き非盲検試験を実施し、心房細動患者の断酒による効果について検討した。

対象は、1週間当たりの標準飲酒量が10ドリンク（純アルコール量で約12g/杯）以上で、発作性または持続性心房細動があり、試験開始時に洞調律であった成人患者140例（平均年齢62歳、男性85%）とした。被検者を1：1の割合で、飲酒をやめる群（断酒群：70例）と通常通りに飲酒する群（対照群：70例）の2群にランダムに分け、6か月間追跡した。その結果、断酒群の飲酒量は試験開始前と比べ週平均で87.5%減少したのに対し、対照群では19.5%の減少であった。心房細動の再発は、対照群では70例中51例（73%）に認められたのに対し、断酒群では70例中37例（53%）であった。また、再発までの期間も断酒群で有意に長かった（ハザード比：0.55、 $P=0.005$ ）。追跡期間中の心房細動の総負荷についても、心房細動発作時間の割合の中央値が対照群では1.2%であったのに対し、断酒群では0.5%と有意に低かった（ $P=0.01$ ）。

したがって、飲酒習慣のある心房細動患者が断酒をすることにより、不整脈の再発が減少することが示された。

出典：New England Journal of Medicine. 2020 Jan 2; 382(1): 20-28.